

科目名	健康科学特殊研究	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その基本的な考え方と、個々の事例に適用する際の課題について学修する。</p> <p>2. 「健康」の基礎となる「生命活動」について、生態系と生命体個体の両方の観点から、「生命とは何か」という問いを考察する。</p>		
到達目標	<p>医療分野における「エビデンス」が作成されるプロセスとその適用方法を理解できる。</p> <p>健康科学の基礎となる生命科学について、その研究の基本的な考え方を習得する。</p>		
学修方法	<p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も2017年1月上旬までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	平常評価	20%	レポート提出までの過程を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 日本医療機能評価機構 教材名： 『医療情報サービス Minds (マインズ)』 http://minds.jeqhc.or.jp/n/top.php
	厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。
参考図書	福井 次矢, 山口 直人 監修 『Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014』 (医学書院, 2014年) ISBN:978-4-260-01957-6 (3,500円+税)
履修上のポイント	医療分野において言われる『エビデンス』がどのようにして検証されるのか、またそのエビデンスに基づいたガイドラインを、個々の事例に適用する際の考え方について学修する。
レポート課題 1	特定の診療ガイドラインを取り上げ、そのガイドラインが作成された目的と経緯、作成時のポイント等をまとめること(注:ガイドライン自体の解説ではない)。 ガイドラインとしては、例えば厚生労働省の『健康づくりのための身体活動基準 2013』や、日本看護協会の『夜勤・交代制勤務に関するガイドライン』のようなものでも良い。
レポート課題 2	上記のガイドラインを、個々の事例に当てはめた際の課題を論ずること。異なるガイドライン間での方針の相違を取り上げて良い。 該当する事例を思い当たらない場合は、連絡して下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名： 『現代生命科学』(羊土社, 2015年) ISBN:978-4-7581-2053-1 (2,800円+税)
	生命科学の基礎的な知識に関し、最新の情報を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。
参考図書	(1) 池田 隆著『人間自身がすでにひとつの「生態系」』(自由国民社, 2012年) ISBN:978-4-426-11435-0 (1,500円+税) (2) 福岡 伸一著『世界は分けてもわからない』(講談社現代新書, 2009年) ISBN:978-4-06-288000-8 (780円+税) (3) 中屋敷 均著『生命のからくり』(講談社現代新書, 2014年) ISBN:978-4-06-288268-2 (740円+税)
履修上のポイント	「生命とは何か」という問いに対し、生態系という観点と、生命体個体に関する視点から、その答えにアプローチする方法論を学修する。
レポート課題 1	ヒトも生態系の一部という観点から、共生する微生物(腸内、皮膚、あるいは環境)、または生物の中から一つを取り上げ、健康や疾患との関連性について論じること。
レポート課題 2	ヒトを含めた生命体、あるいは細胞の機能を理解する上で、生命体を、それを構成する臓器・組織、細胞内小器官や生体高分子等の部分・物質レベルに分割して理解しようとする、いわゆる「機械論的な還元主義」に関し、その有用性と限界、及び健康と不健康状態(疾病を含む)との関連性について論じること。合成生物学的な観点を取り入れても良い。 正解の無い哲学的な課題でもあるが、観念論に終始せず、生命科学の知見を踏まえ、なるべく具体的な事象を取り上げた上で、自分自身の考えを論じて下さい。